

平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年11月13日

上場会社名 M-フルッタフルッタ 上場取引所 東
 コード番号 2586 URL https://www.frutafruta.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 長澤 誠
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員CFO (氏名) 杜山 悦郎 TEL 03-6272-3190
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の業績（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	1,449	△24.8	△195	—	△191	—	△228	—
27年3月期第2四半期	1,926	—	164	—	172	—	110	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	△226.07	—
27年3月期第2四半期	121.88	—

- (注) 1. 当社は平成26年3月期につきましては、第2四半期財務諸表を作成していないため、平成27年3月期の対前年同四半期増減率の記載はしていません。
 2. 第13期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であったため期中平均株価が把握できないことから、記載していません。
 3. 第14期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第2四半期	3,338	960	28.8	951.62
27年3月期	2,490	1,195	48.0	1,184.00

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 960百万円 27年3月期 1,195百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,100	△7.3	△180	—	△186	—	△223	—	△221.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日（平成27年11月13日）公表いたしました「業績予想の修正及び役員報酬の減額に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期2Q	1,009,400株	27年3月期	1,009,400株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	－株	27年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期2Q	1,009,400株	27年3月期2Q	909,400株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績・財政状態に関する分析（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策等の効果により、企業収益や雇用・所得環境が改善傾向にあり、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、海外経済については、アメリカの金融政策の動向や中国を始めとしたアジア新興国の景気の下振れリスク等により、依然として、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、円安水準が高止まりするなか、原材料価格高騰による商品の値上げや消費者の節約志向による慎重な購買姿勢が継続し、引き続き厳しい状況が続きました。

このような環境の下、当社は、『自然と共に生きる』という企業理念のもと、『アサイーカンパニーからスーパーフードカンパニーへ』を掲げ、商品の企画開発に積極的に取り組み、9月下旬よりスーパーフードやアマゾンフルーツを使用したリニューアル製品を含めた新製品18アイテムを順次発売いたしました。また、アグロフォレストリー・マーケティングの強化にも努め、百貨店の催事や夏季フェスティバルイベントに積極的に出店する等、国内での販路拡大とアサイー及びアマゾンフルーツの認知度向上に取組んでまいりました。

当第2四半期累計期間においては、流通在庫の調整期間と位置づけ、例年投入していた春夏新製品の発売を行いませんでした。前期はアサイーがメディアに頻繁に上げられアサイー市場が盛り上がり、またブラジル・ワールドカップサッカー開催の影響もあり、売上は好調に推移いたしましたが、当期は、過熱したアサイーブームの調整や、夏季での売上が想定を下回る結果となり、当第2四半期累計期間の売上高は1,449,144千円(前年同期比24.8%減)と減少いたしました。

利益面につきましては、前期より当社製品の主原料となるアサイーの価格が需給バランスにより急激に上昇したことや為替円安の影響を受け高騰したことで、当社収益を圧迫しました。更に、売上が低調に推移するなか期末製品在庫が増加したことで、製品の評価性引当額が増加した事も影響し、結果として、売上総利益は371,763千円(前年同期比53.0%減)と大幅に減少いたしました。

販売費及び一般管理費においては、昨年12月、東証マザーズに上場したことに伴い、前期に比べ上場管理コストや人件費等が増加しておりますが、想定以上に売上と売上総利益率が低下したことで、対販管費率が上昇することとなりました。その対策として当社は、経費削減プロジェクトを立上げ、経費削減に取り組み、主に販売促進費や広告宣伝費等の支出を抑え費用の低減に努めたものの、その効果が現れるのは下期以降と見込んでおり、結果として、営業損失195,461千円(前年同期は営業利益164,607千円)、経常損失191,068千円(前年同期は経常利益172,728千円)となりました。

今回このように、前期の過熱したアサイーブームからの反動による売上減少や急激な原料価格上昇による影響で、多大な営業損失を計上いたしました。当社は業績改善に向け、アサイー製品の販路拡大に加え、アサイー以外のスーパーフード関連の高付加価値製品の開発や加工食品等への新たな販売チャネルの開拓を推し進めてまいりますが、現業績を真摯に受け止め保守的観点より、繰延税金資産の全部を取崩すこととしました。結果として、当期純損失は228,195千円(前年同期は当期純利益110,839千円)となりました。

当社は輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。事業部門別の業績は次のとおりであります。

ナショナル・ブランド事業部門（NB事業部門）に関しては、春夏新製品の発売はなかったものの、主力製品「フルッタアサイーシリーズ」のリニューアルの実施や、新規開拓により中堅CVSにおいて商品導入を獲得いたしました。しかしながら、過熱したアサイーブームの反動もあり、夏場の全国的な天候不順の影響も受け、厳しい状況となりました。この結果、NB事業部門全体の売上高は757,107千円(前年同期比35.6%減)となりました。

アグロフォレストリー・マーケティング事業部門（AFM事業部門）に関しては、大手菓子メーカーへのアグロフォレストリー産カカオ豆の販売は大幅に増加いたしました。一方、夏場の天候不順による影響で、大手スペシャリティーコーヒーチェーンをはじめとした外食店向けの売上が低調に推移し、また、食品メーカーにおいては、アサイー原料採用が一巡したことで、アサイー原料売上が減少いたしました。この結果、AFM事業部門全体の売上高は555,025千円(前年同期比1.1%減)となりました。

ダイレクト・マーケティング事業部門（DM事業部門）の、直営店舗に関しては、グラノーラのギフト販売やアマゾンフルーツのメニュー拡大、店舗での試飲会を実施する等活性化を図りましたが、アサイーブームが落ち着いたこともあり低調に推移しました。また、アサイーの知名度向上を図るべく情報発信地として役割を果たしてきた幕張新都心店につきましては、その役目を終えたことと採算性も鑑み2015年9月末をもって閉店いたしました。WEB通販に関しては定期顧客は堅調に推移しておりますが、通販独自の販促実施が少ないこともあり低調に推移しました。この結果、DM事業部門全体の売上高は137,010千円(前年同期比27.7%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産に関する分析

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末より847,716千円増加したことで、3,338,003千円となりました。流動資産の残高は、843,792千円増加して、3,086,664千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が740,745千円増加、原材料及び貯蔵品が141,847千円増加したこと等によるものであります。固定資産の残高は、3,923千円増加して、251,339千円となりました。この主な要因は、投資その他の資産が15,192千円減少した一方で、無形固定資産が20,058千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末より1,082,274千円増加したことで、2,377,436千円となりました。流動負債の残高は、956,208千円増加して、2,074,761千円となりました。この主な要因は、未払法人税等が99,177千円減少した一方で、資金調達により短期借入金が974,600千円増加、1年内返済予定の長期借入金が138,760千円増加したこと等によるものであります。固定負債の残高は、126,066千円増加して、302,674千円となりました。この主な要因は、社債が25,000千円減少した一方で、資金調達により長期借入金が128,480千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末より234,558千円減少したことで、960,566千円となりました。この主な要因は、四半期純損失の計上に伴い利益剰余金が228,195千円減少したこと等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動において508,422千円、投資活動において3,261千円、それぞれ資金を使用しましたが、財務活動において1,226,840千円資金を調達したことで、前事業年度末に比べ740,745千円増加し、当第2四半期会計期間末は1,247,387千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に使用した資金は、508,422千円(前年同期は585,334千円の使用)となりました。これは主に、税引前四半期純損失192,413千円の計上、たな卸資産の増加146,191千円、法人税等の支払額95,902千円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、3,261千円(前年同期は210,781千円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,226千円、無形固定資産の取得による支出1,034千円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で調達した資金は1,226,840千円(前年同期693,706千円の調達)となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出625,400千円や長期借入金の返済による支出132,760千円があった一方で、短期借入金の借入による収入1,600,000千円、長期借入金の借入による収入400,000千円があったこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年11月13日に公表しました「業績予想の修正及び役員報酬の減額に関するお知らせ」にて業績予想を修正しております。なお、詳細につきましては、平成27年11月13日公表の「業績予想の修正及び役員報酬の減額に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	506,641	1,247,387
売掛金	394,041	363,244
商品及び製品	366,899	371,243
原材料及び貯蔵品	913,758	1,055,605
その他	61,530	49,183
流動資産合計	2,242,871	3,086,664
固定資産		
有形固定資産	28,812	27,869
無形固定資産	7,216	27,275
投資その他の資産	211,386	196,193
固定資産合計	247,415	251,339
資産合計	2,490,286	3,338,003
負債の部		
流動負債		
買掛金	312,095	278,771
短期借入金	400,000	1,374,600
1年内償還予定の社債	30,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	144,720	283,480
未払法人税等	101,022	1,845
賞与引当金	13,148	—
資産除去債務	—	1,795
店舗閉鎖損失引当金	—	1,345
その他	117,567	92,925
流動負債合計	1,118,553	2,074,761
固定負債		
社債	25,000	—
長期借入金	140,100	268,580
資産除去債務	11,507	10,156
その他	—	23,937
固定負債合計	176,607	302,674
負債合計	1,295,161	2,377,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	363,340	363,340
資本剰余金	401,825	401,825
利益剰余金	422,844	194,648
株主資本合計	1,188,010	959,814
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	7,114	752
評価・換算差額等合計	7,114	752
純資産合計	1,195,125	960,566
負債純資産合計	2,490,286	3,338,003

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	1,926,102	1,449,144
売上原価	1,135,300	1,077,380
売上総利益	790,802	371,763
販売費及び一般管理費	626,195	567,225
営業利益又は営業損失(△)	164,607	△195,461
営業外収益		
受取利息	30	43
為替差益	18,201	17,556
その他	1,361	1,140
営業外収益合計	19,593	18,740
営業外費用		
支払利息	3,974	5,320
デリバティブ評価損	6,460	8,887
その他	1,037	139
営業外費用合計	11,472	14,347
経常利益又は経常損失(△)	172,728	△191,068
特別損失		
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	1,345
特別損失合計	—	1,345
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	172,728	△192,413
法人税、住民税及び事業税	54,813	△846
法人税等調整額	7,075	36,628
法人税等合計	61,889	35,782
四半期純利益又は四半期純損失(△)	110,839	△228,195

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	172,728	△192,413
減価償却費	8,712	5,151
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△11,304	△13,148
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△6,047	—
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	—	1,345
受取利息及び受取配当金	△31	△43
支払利息	3,974	5,320
為替差損益 (△は益)	△18,171	△25,589
デリバティブ評価損益 (△は益)	6,460	8,887
売上債権の増減額 (△は増加)	△7,722	30,797
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△128,253	△146,191
仕入債務の増減額 (△は減少)	△44,324	△33,323
前渡金の増減額 (△は増加)	△490,052	△5,610
その他	19,675	△40,694
小計	△494,357	△405,514
利息及び配当金の受取額	31	43
利息の支払額	△4,167	△7,049
法人税等の支払額	△86,841	△95,902
営業活動によるキャッシュ・フロー	△585,334	△508,422
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	△203,700	—
有形固定資産の取得による支出	△4,691	△2,226
無形固定資産の取得による支出	—	△1,034
その他	△2,390	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△210,781	△3,261
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	900,000	1,600,000
短期借入金の返済による支出	△330,000	△625,400
長期借入れによる収入	200,000	400,000
長期借入金の返済による支出	△61,294	△132,760
社債の償還による支出	△15,000	△15,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	693,706	1,226,840
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,171	25,589
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△84,238	740,745
現金及び現金同等物の期首残高	453,232	506,641
現金及び現金同等物の四半期末残高	368,993	1,247,387

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。